

## 太鼓の森づくり 目的

ケヤキは、古くから和太鼓の素材として使用されてきましたが、戦後の針葉樹の拡大造林によって、スギやヒノキが植林され、代わりに多くの広葉樹林が伐採されてしまいました。そのため広葉樹の象徴である大径木のケヤキは、全国的にほとんどなくなっています。現在太鼓には、シオジやセン、海外からはカリンやナラの木が使われるようになっています。

当団体の所在地である埼玉県は、ケヤキを「県木」としているように、かつての埼玉県は古くからケヤキが多い地域でした。地名(岩槻)や川(槻川)の名前に「槻」が使われているのは、古名で「ケヤキ」を意味しているほど、埼玉県はケヤキが多く見られました。しかし、現在では県の70%は針葉樹になっています。

本来の日本の森は、多様な樹種が多く広葉樹、針葉樹が育む生物多様性でも良い環境を作ってくれていました。多様な森から木材製品が様々に作られ、用具として、日本の伝統工芸品になっています。和太鼓は、世界に誇る伝統楽器でもあります。和太鼓を次世代に継承していくためにも、ケヤキの素材の和太鼓を作り続けなければなりません。「ケヤキ」が不足しているため、ケヤキの森づくりを行い、日本の原風景でもあるケヤキのある広葉樹の森にしたいと考えます。

当協会はケヤキの森づくりを通して、和太鼓愛好者や一般の方々に、太鼓は木から出来ていることを伝え、「太鼓の森づくり」を通して、森林の大切さを、森づくり意義を伝えていきたいと考えます。そして次世代に残す“太古の森”へとつなげていきます。

- **豊かな森の再生～針葉樹から広葉樹へ～**  
 荒廃した山林の整備を通じて、歴史的地域の森林が持つ多様性を取り戻し、地域の広葉樹林の森を再生します。
- **人材育成～森づくりから始める人づくり～**  
 継続的な森づくりから、環境(森林)意識の醸成を高め、次世代に伝えることの大切さを育てていきます。
- **自然ふれあい事業の実施～地域とともに森づくり～**  
 地域住民・行政・学校・企業と協働/連携しながら事業をすすめます。

## 太鼓の森づくり プラン

豊かな森の再生を行う「太鼓の森」づくりは、東秩父村、埼玉県と協定してケヤキの森づくりをおこなう。今年度は、協定地の雑木等を刈り払い、植樹するための下ごしらえ作業を行い、ケヤキやカエデ、サクラ等の広葉樹を植樹します。また散策道づくりを行い、多くの人たちが参加できる下刈りや和太鼓演奏をおこなっていきます。併せて村と都市との交流を目的に村と共催で「太鼓の森づくり」のイベントを年1回開催する。継続的な活動にしていくためにシンポジウム等を開催し参加者を募る。

## プラン実施による効果

「太鼓の森」(ケヤキの森)づくりを通して、広葉樹のある森のあり方を考えてもらいます。太鼓は森からの恵みを利用した日本の伝統楽器であることを伝え、森がなくては和太鼓が作れないことも伝えることができます。太鼓祭りで太鼓愛好者や東秩父村民との交流づくりにつながり、山村地域の活性化にもつながります。

- **豊かな森の再生～針葉樹から広葉樹へ～**  
 荒廃した山林の整備を通じて、歴史的地域の森林が持つ多様性を取り戻し、地域の広葉樹林の森を再生します。森づくりを通して地域、参加者自身の意識が変わることを目指します。
- **人材育成～森づくりから始める人づくり～**  
 多様な森づくりの活動に関わることにより、健康の維持と共に精神的な安らぎを得、豊かな心を育みます。継続的な森づくりから、環境(森林)意識の醸成を高め、次世代に伝えることの大切さを育てていきます。
- **自然ふれあい事業の実施～地域とともに森づくり～**  
 地域住民・行政・学校・企業と協働/連携しながら事業をすすめるほか、脈々と受け継がれてきた里山の暮らしを見直し、当協会や一般参加者とともに「太鼓の森」が“太古の森”につながる“広葉樹の森”の再生につなげていきます。

## 太鼓の森(広葉樹の森)と里山

NPO法人「荒川わらの会」理事長 三宮幸雄

こんにち、政治・経済・文化のうち最も元気なのが文化です。なかでも、「食文化」です。今年9月のB-1グランプリでゴールドグランプリを獲得した「甲府鳥もつ煮」の年間経済効果(約28億円)が良い例です。そして食満たりにて、次に求められる文化が「心の文化」(いやしの文化)です。その鍵は、ふるさとの野山に代表される「里山の保全」にあるのではないのでしょうか。私の大好きなまちに、神奈川県真鶴町があります。「美の条例」で有名な「海のまち、小松石のまち」です。また、「バブル時に、リゾート法施行による乱開発を町民全員で守ったまち」でもあります。このまちの「美」とは、路傍の石仏の美であり、石の階段のすき間に楚々と咲く野の花の美です。

つまり、人と自然と文化が合いまったふるさとの原風景「里山」の美なのです。日本太鼓協会の百年先をにらんでの今回の「太鼓の森づくり」事業は、まさにこの真鶴町の取組みによく似ています。太鼓の森づくりは、この村の山や川、田んぼや畑、そして路傍の石仏を大事にする「心の文化」づくりでもあります。このことは、またこの東秩父村の原風景、ふるさとの原風景里山を守ることにもつながっているのです。

地域活性化についての試みは実にさまざまあります。日本初のこの試み「太鼓の森づくり」が、この村の発展「心の文化」(いやしの文化)づくりにつながり、ひいては日本太鼓協会の更なる飛躍につながるよう心よりお祈り申し上げます。

### 荒川わらの会

NPO法人「荒川わらの会」は、北本市高尾橋周辺の荒川河岸に広がる不耕作田畑を地権者の同意を得て市民参加のもとに耕作し、景観の回復・保全に資するとともに、北本市の農業振興・有機農産物の普及等に寄与することを目的としています。なお、北本市は平成4年から市の中央部の市街地を南北に走るJR高崎線の両側の雑木林(広葉樹)、それぞれ20mの幅で、延長約1.3km、面積3.2haを身近に親しめる緑地帯として買収保全しています。今事業の「太鼓の森」「太古の森」づくりの精神につながるものと思っています。

## 太鼓の森づくり スケジュール

### ● 平成22年

協定地の現地調査(測量も含めて)、森づくり協定を結ぶ。森林づくりの専門家からなるプロジェクト委員会を発足。シンポジウムやフォーラムを通して槻川源流の森の再生を啓蒙、東秩父村「和紙の里」においてケヤキの森イベントを開催。協定地の除伐採や下刈りなど下ごしらえ作業を行う。

8月上旬 第1回東秩父村とプラン打合せ会議  
 埼玉県森づくり課とプラン打合せ会議1回目

8月中旬 第2回東秩父村とプラン打合せ会議

9月上旬 太鼓の森づくりプロジェクト委員会発足  
 第3回東秩父村とプラン打合せ会議  
 第1回東秩父村 植林候補地現地調査

9月中旬 理事会にて第1回太鼓の森づくり協議会  
 埼玉県森づくり課とプラン打合せ会議2回目  
 太鼓の森づくり計画書作成

9月下旬 NPOサポートセンター  
 太鼓の森づくり ヒアリング

10月上旬 理事会にて第2回太鼓の森づくり協議会

10月中旬 第4回東秩父村とプラン打合せ会議  
 第2回東秩父村 植林候補地現地調査

10月下旬 埼玉県森づくり課とプラン打合せ会議3回目  
 第3回東秩父村 植林候補地現地調査

11月上旬 第5回東秩父村とプラン打合せ会議  
 太鼓の森づくりシンポジウム打ち合せ1回目  
 理事会にて第3回太鼓の森づくり協議会

11月中旬 埼玉県森づくり課とプラン打合せ会議4回目  
 太鼓の森づくりシンポジウム打ち合せ2回目  
 太鼓祭inくまがやドーム2010にて太鼓の森づくりチラシ配布12,000枚  
 太鼓の森づくりチラシ新聞折込8000枚

11月20日 太鼓の森づくりイベント開催  
 主催:日本太鼓協会 後援:東秩父村  
 東秩父村「和紙の里」にてケヤキ記念植樹&シンポジウムを開催  
 太鼓協会、埼玉県、東秩父村、土地所有者で太鼓の森づくり協定を結ぶ確認をした。

12月中旬 理事会にて第4回太鼓の森づくり協議会

### ● 平成23年

植樹と下刈りを行う、また散策道の整備を同時に行う。  
 獣害対策等も植樹と共に進行。

3月上旬 除伐、下刈り、地揃え作業

3月下旬 太鼓の森づくり協定締結式(5年間)  
 森づくり協定地にケヤキ、サクラ、カエデ等の広葉樹を150本植樹

7月上旬 植林地下草刈り&太鼓の森づくりイベント開催

9月中旬 植樹地下刈り活動